でんでら通信 第百三十号 令和七年二月

禅林寺春の予定

二月十五日 涅槃会

お釈迦様のご命日。当寺の本堂内に亡くなられた様子を描かれた涅槃図を掲げて供養します。

二月二十七日(火) 十時

坐禅会

みなさんのご参加をお待ちしております。

三月八日(土) 午後二時

春の永代供養会

今回は、本山からの巡教師であります岡山県、仏土寺住職 馬場道隆師にご法話いただきます。

どうぞ皆さん、万障お繰り合わせの上ご参詣ください。

令和六年会計決算報告、令和七年予算案審議

一月十一日当寺において大般若祈禱会の後、総代様、今年の年行事様におきまして、令和六年禅林寺会計決算報告、令和七年禅林寺会計予算案について御審議頂き、了承されました。(別紙のとおり)

養生七割

どんな仕事、作業でも開始前の準備を怠ると、大きなミスとなる。このことはどんな職業にも言えることでしょう。そこでこんな記事が掲載されています。

したので紹介します。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

過日、宴席でペンキ屋の若大将と知り合いになった。若大将といっても、四十代のおじさんだが、この彼に率直な質問を試みた。

「プロのペンキ屋の極意とは何か？」

彼はちよっと困ったような顔をしていたが、しばらく考えてから、こう答えた。

「親父がよく言っているのは、養生七割ってことですかね」

この答えは意外だった。私はてっきりペンキの塗り方についての答えが返ってくるものだと思っていたのだ。それが、大事なのは養生、つまり塗装前の準備と後始末だというのだから、予想外だった。

「だから親父は養生テープとかにすごくこだわっていて、新しいのを見つけるとすぐに買ってきて試すんですよ」

「なるほどねえ。養生七割か」

いい言葉だな、まさに職人の考え方だな、と私は感心した。

後日、行きつけの美容室で、この話を得意げに披露してみた。

「ペンキ屋の極意はね、養生が七割なんだってさ」

美容師のKさんは、この話に即座に反応した。

「あ、それよくわかります」

「え？美容師もそうなの？」

「ええ。私、昔ね、先輩に訊かれたことがあるんです。右手と左手、どっちが効かなくなったら困る？私は右利きだから、そりゃあ右手が利かない方が困るっ

て答えたんです。そしたら先輩は違うって言うんです」

「左手の方が困る？」

「そう。左手の方が大事なんです。右手はね、ハサミが持てなかったら、バリカン使えば髪は切れるでしょう。大事なのは髪をすいて押さえる左手の方なんです」

「じゃ右手三割、左手七割？」

「まあ、そんな感じですかね」

「つまり養生七割か」

なるほど、そうだったのか、と私はまたもや感心した。ペンキ屋にしろ美容師にしろ、いい仕事をする職人は、きつと素人の目には見えない七割の養生を大事にしているに違いない。

以来、私は人の仕事や世の中の物事を、養生を何割くらいにしているか、という視点で捉えるようになった。

例えばプロ野球のバッターも、三割打てる人は、きつと七割の養生を大事にしている。現在大リーグで活躍中の大谷選手も、眠ること、つまり養生を何よりも大事にしているというではないか。

(原田宗典「暮らしの手帖」随筆 5年10・11月号) 目に見える本番よりも見えない所に七割の重きを置く、どんなことにも通じそうです。

私たち僧侶も人前で法事、葬儀を執り行います。それに備えての体調、準備も大切です。私も以前、葬儀に役僧として会場に行った時、袈裟(衣の上に着用する布)を忘れ出られなかったことがあります。時間ばかりに気をつけていて準備を怠ったことが原因でした。師匠である父親に叱られたことが思い起こされます